

「加賀市水道事業ビジョン」の策定

～安心できる水を
安定して供給しつづける水道～

平成27年11月18日

石川県 加賀市

発表の概要

- 加賀市の概要
- 加賀市水道事業の概要
- 加賀市水道事業ビジョンの位置付け
- ビジョンで描く水量予測
- 県水受給水
- ビジョンでの事業計画
- ビジョンでの財政目標、人材育成、広域化



平成26年度決算より

加賀市の人口 = 69,837人

年度末給水人口 = 69,824人

1日平均給水量 = 34,234m³/日

1日最大給水量 = 40,453m³/日

1日平均有収水量 = 30,657m³/日

水道事業認可

平成17年10月1日

変更：平成23年3月1日

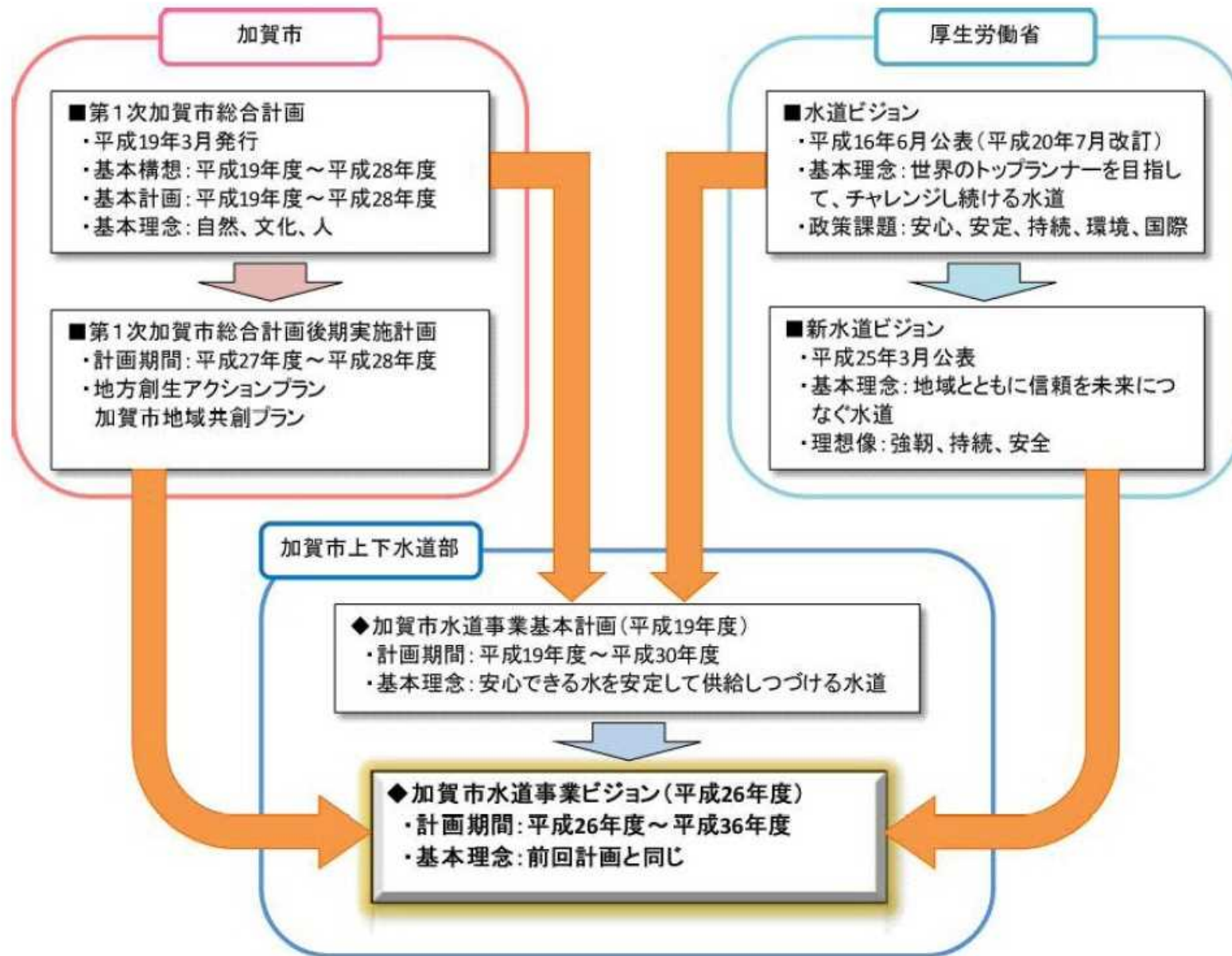
給水人口 = 75,000人

1日最大給水量 = 54,100m³/日

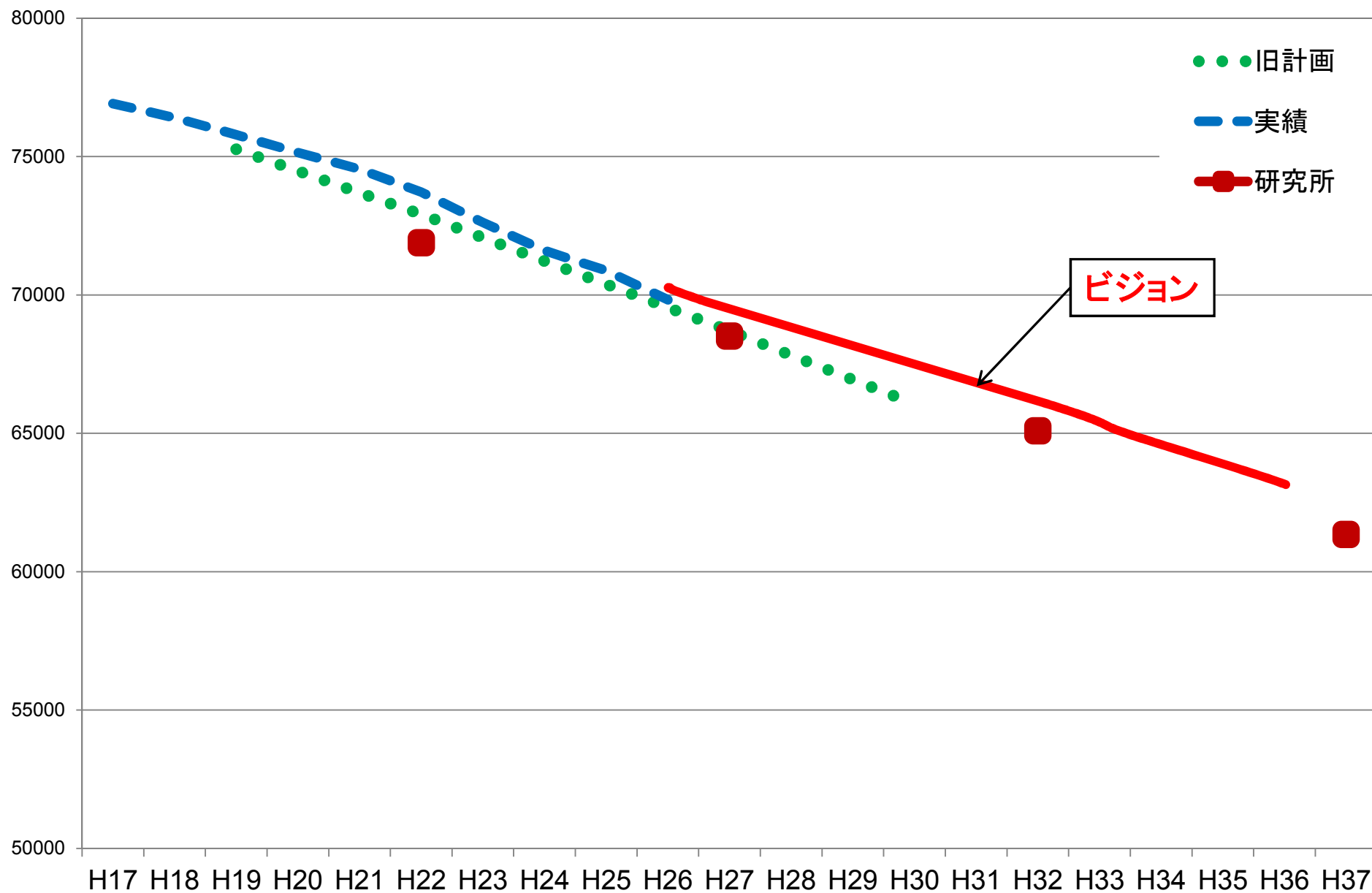
※年間宿泊施設への入込客数
約190万人/平成26年度



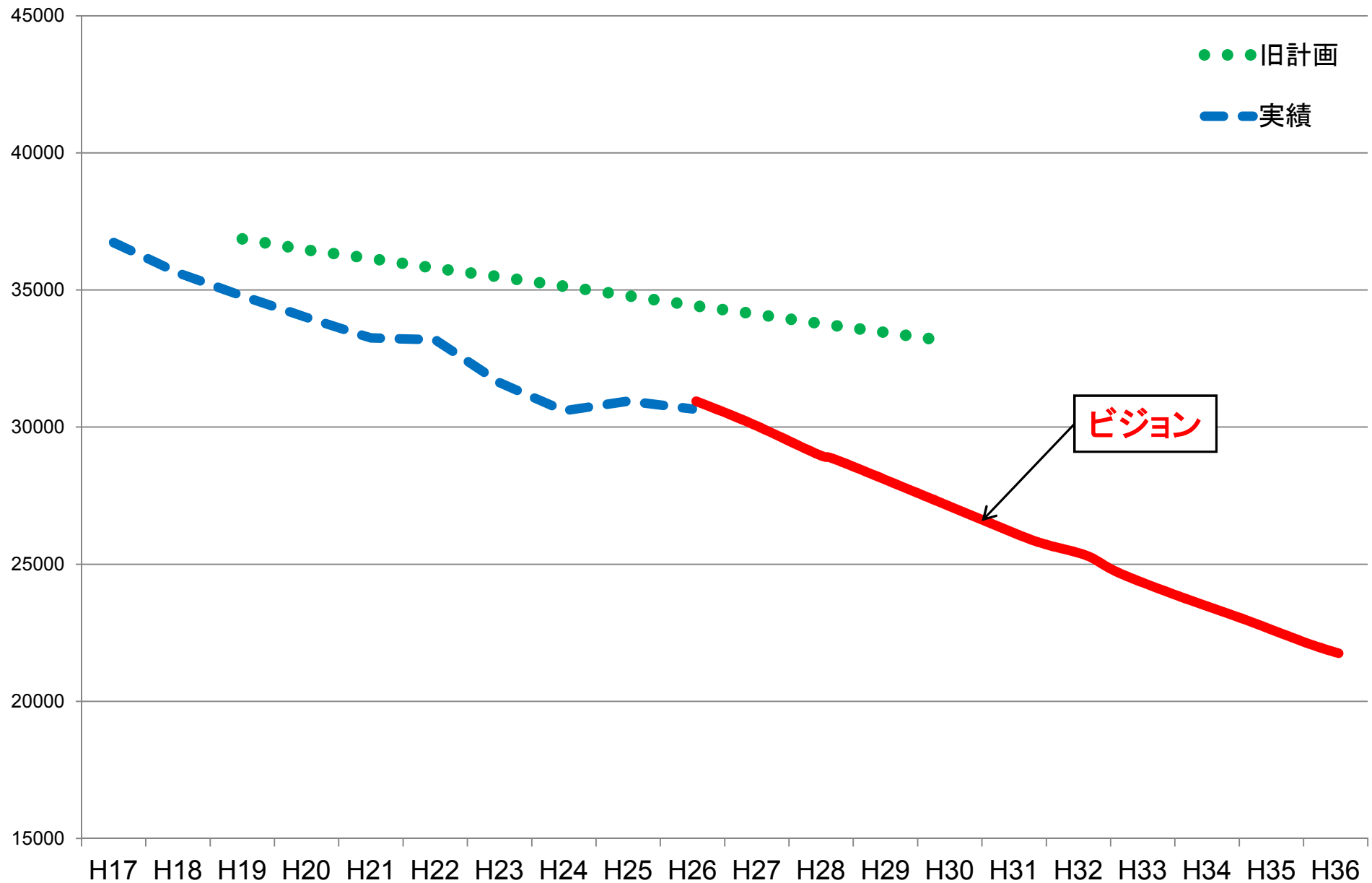
ビジョンの位置付け



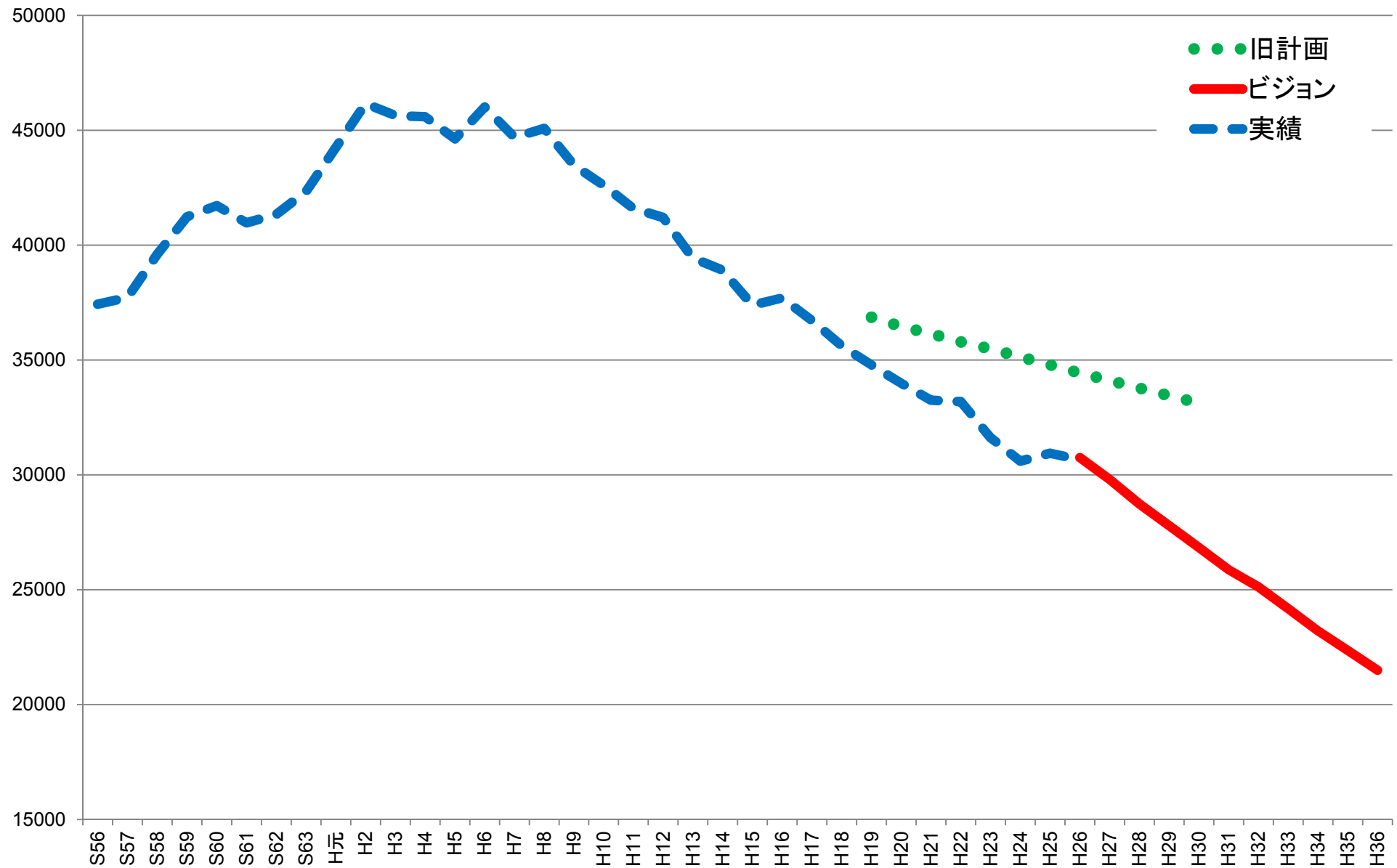
給水区域内人口



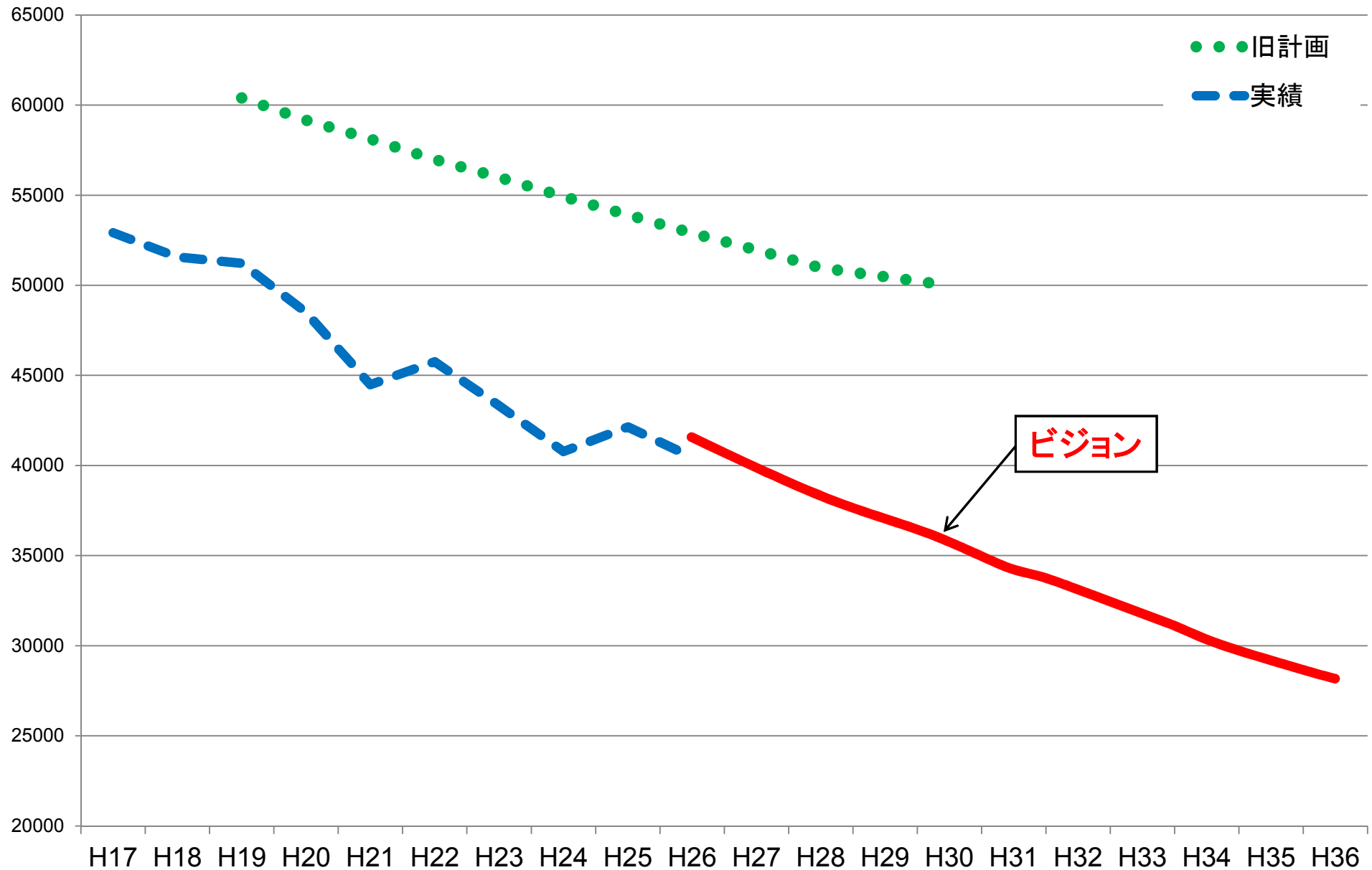
一日平均有収水量



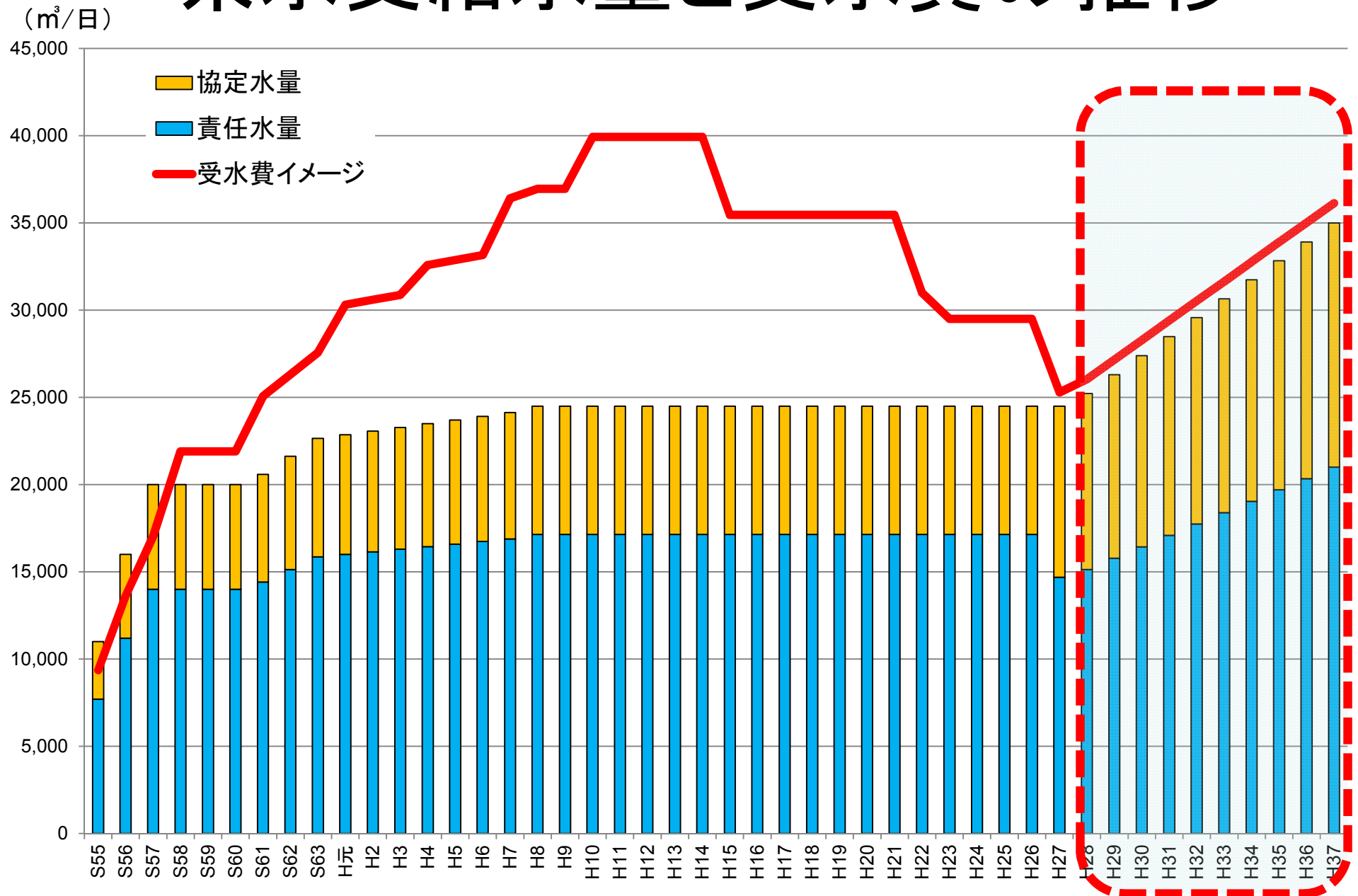
一日平均有収水量



一日最大給水量



県水受給水量と受水費の推移



『加賀市水道事業基本計画』 と 『加賀市水道事業ビジョン』 の比較

	『基本計画』 平成19年度作成	『ビジョン』 平成26年度作成	
	平成30年度 (目標年度)	平成30年度	平成36年度 (目標年度)
給水人口	66,100人	67,470人	63,100人
1日平均有収水量	33,119m ³ /日	26,830m ³ /日	21,500m ³ /日
1日最大給水量	49,982m ³ /日	35,800m ³ /日	28,300m ³ /日
事業計画規模	124億円/13年 (9億5千万円/年)	91億円/10年 (9億1千万円/年)	

事業計画

（単位；百万円）

項 目	事業費	平成26年度実績
①水道施設耐震化事業	2,979	48
②配水管網整備事業	576	124
③取水施設更新事業	300	0
④導送水施設整備事業	710	297
⑤配水施設更新事業	95	7
⑥老朽管更新事業	3,115	291
⑦配水管更新事業	381	2
⑧重要給水施設配水管整備事業	41	23
⑨給水管更新事業	426	68
⑩測量・試験費・その他	440	—
合 計	9,063	860

①基幹水道構造物の耐震化事業 (2,979百万円)

本市水道事業の最重要基幹施設である山中浄水場の耐震化事業を推進します。その中で九谷ダムで検出された臭気物質を除去できる粉末活性炭処理施設を導入します。また、老朽化している山中配水池を8,000m³に増強するとともに耐震化を行います。

	事業概要	事業年度	備考
	粉末活性炭処理施設建設工事	H27・H28	
	1～3号配水池等取壊工事	H29	
➡	山中配水池改築更新工事	H30～H32	V=8,000m ³
	緊急遮断弁設置工事	H30～H32	
	4、5号配水池取壊工事	H33	
	洗浄排水池・濃縮槽建設工事	H33～H34	
➡	膜ろ過設備増設工事	H35	施設能力5,000m ³ /日
	脱水棟建設工事	H33～H35	

②配水管網整備事業 (576百万円)

管網の適正化、配水ブロック間相互融通を行うための配水管網の整備を推進します。

事業年度	整備予定延長
H26～H36	9,240m

③取水施設更新事業 (300百万円)

予備水源として位置付けられている枯渇統合水源（我谷ダム貯留水）の撤去工事を平成32年度～平成34年度に行います。

④導送水施設整備事業 (710百万円)

九谷ダム関連施設や七日市送水ポンプ場の更新工事を行います。

事業概要		事業年度
導水	九谷ダム流量計室機械電気設備更新工事	H26～H36
	九谷ダム導水管更新工事	
送水	七日市送水ポンプ場機械電気設備更新工事	

⑤配水施設更新事業 (95百万円)

流量計、水位計、ポンプ、追加塩素注入施設等の設備更新工事を行います。

事業概要	事業年度
橋立配水流量計更新工事	H26
山代配水池水位計更新工事	
山代・塚谷配水池水位計更新工事	H27
大聖寺・作見流量計更新工事	
加圧ポンプ場更新工事	H31～H36

主要事業の概要 4/5 (ビジョン 7-6ページ)

⑥老朽管更新事業 (3,115百万円)

石綿セメント管や鋳鉄管、硬質塩化ビニル管等の老朽管の更新工事を行います。
また、併せて耐震管を布設し、管路の耐震化率の向上に努めます。

	事業概要	事業年度	整備予定延長
➡	老朽管更新事業（石綿セメント管）	H26～H35	28,615m
➡	老朽管更新事業（鋳鉄管）	H26～H35	13,305m
➡	老朽管更新事業（ビニル管）	H26～H31	7,500m
	老朽管更新事業（水管橋）	H32～H35	400m
	老朽管更新事業（鋼管）	H30～H36	9,000m
	老朽管更新事業（配水枝管）	H26～H36	3,811m

⑦配水管更新事業 (381百万円)

他企業の施工する工事のため、支障となる既存配水管の移転に併せ、耐震管を布設し、管路の耐震化率の向上に努めます。

事業概要	事業年度	整備予定延長
配水管更新事業（支障移転）	H26～H36	9,195m

⑧重要給水施設配水管整備事業 (41百万円)

加賀市民病院と山中温泉医療センターを統合する加賀市統合新病院を重要給水施設と位置付け、開院時期である平成28年4月までに当該施設までの路線の耐震化を行います。

	事業概要	事業年度	整備予定延長
➡	統合新病院配水管整備事業	H26・H27	672m

⑨給水管更新事業 (426百万円)

現在残っている鉛製給水管の早期解消に向け、更新事業を着実に推進し、平成30年度までに鉛管の完全解消を目指します。また、目標年度までに3,000件余りの老朽給水管を更新します。

	事業概要	事業年度	整備予定件数
➡	鉛給水管更新事業	H26～H29	433件
	老朽給水管更新事業	H26～H36	3,371件

◆財政健全化目標（平成36年度）

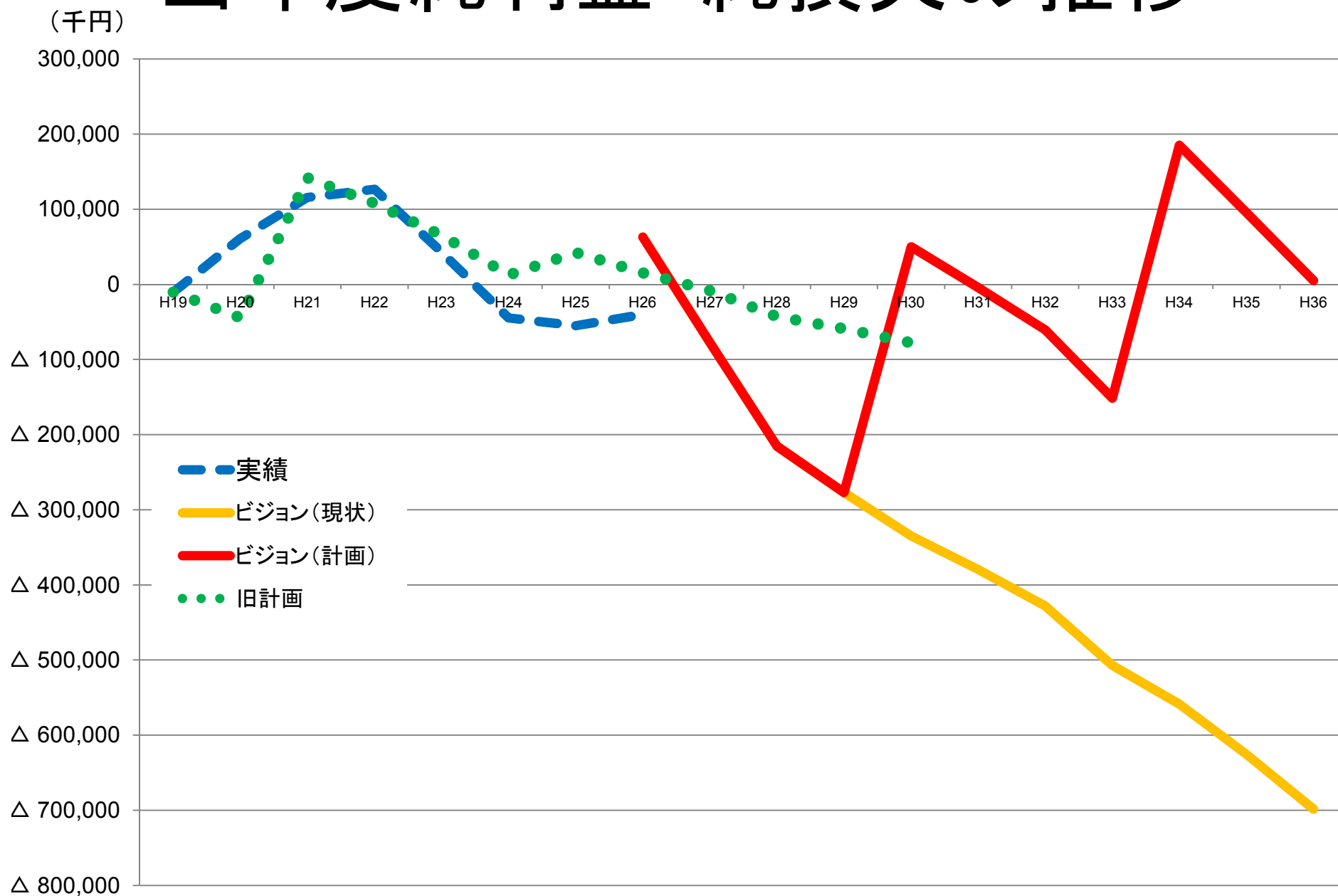
- 単年度純利益を確保する。
- 内部留保資金を現行水準（8億円）と同等以上を保持する。

☆対 策

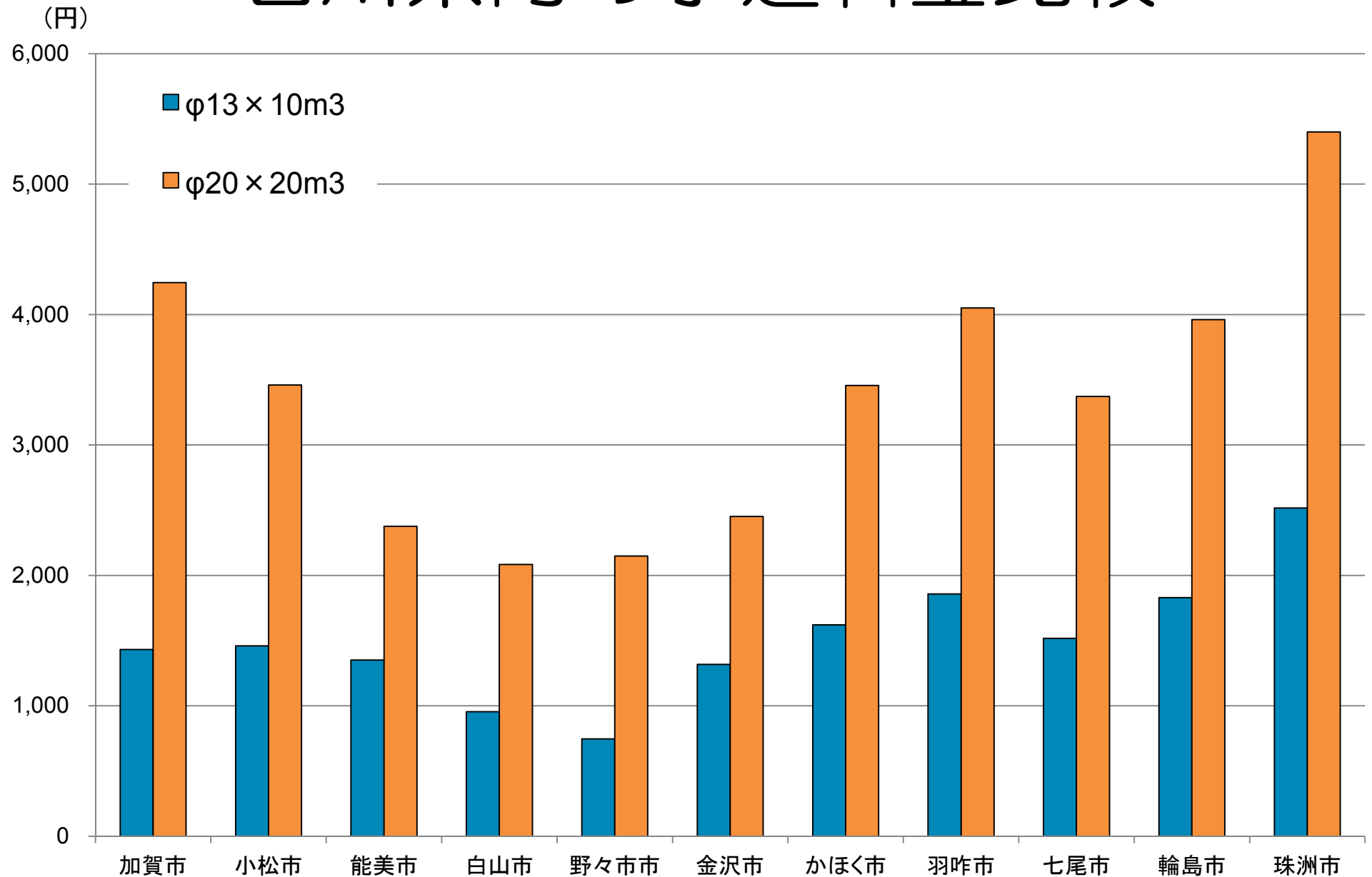
平成30年度～平成33年度：4億円/年の収入増

平成34年度～平成36年度：7億円/年の収入増

当年度純利益・純損失の推移



石川県内の水道料金比較

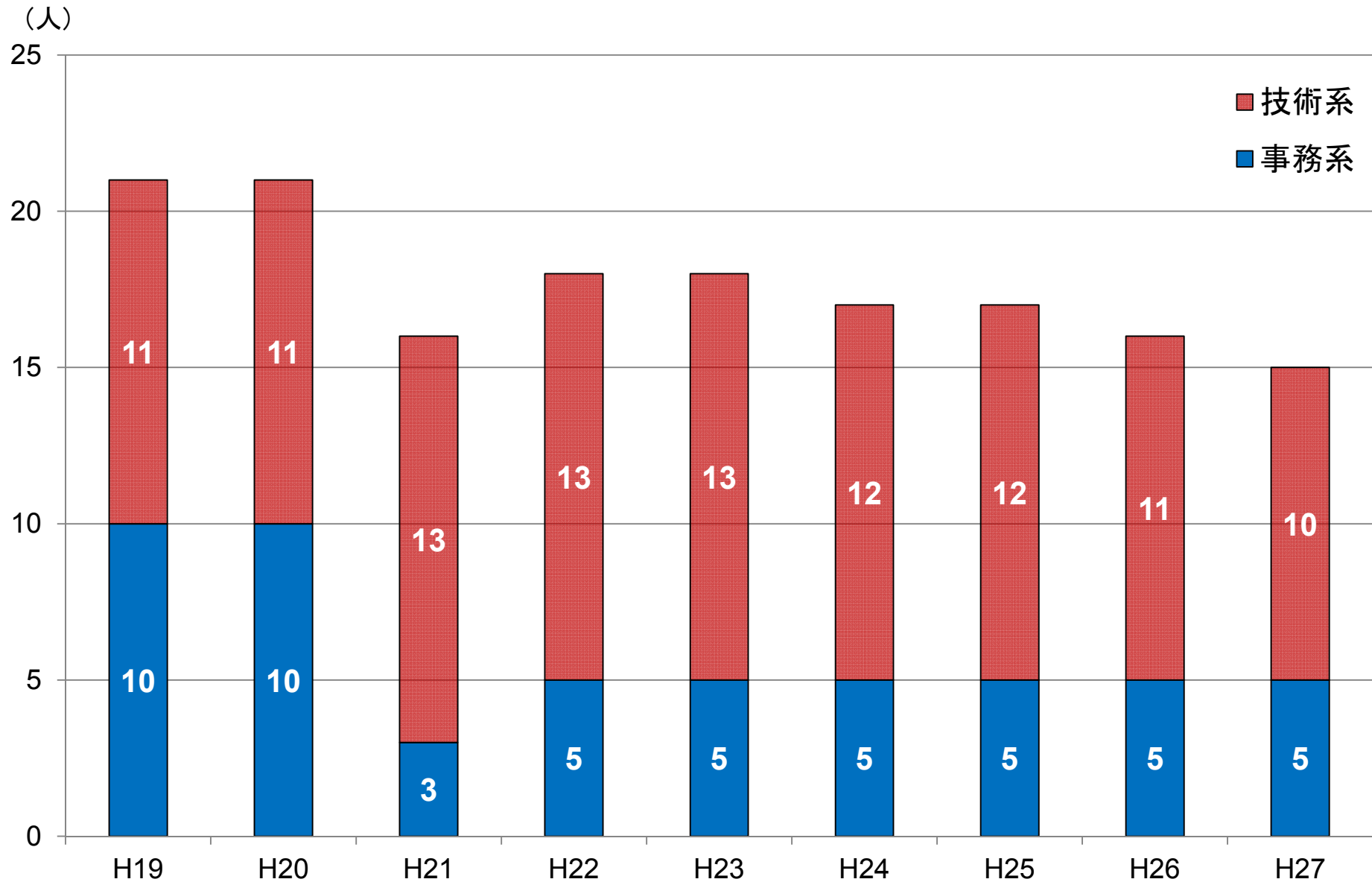


人材育成と技術の継承

水道水の安全性、快適性等、市民ニーズの高度化・多様化に対応するため、水道事業の現場では今以上の高度な技術を身に付ける必要があります。

一方、本市では今後10年以内に水道職員の大量退職に直面し、これまで培ってきた水道技術・ノウハウの喪失が懸念されています。このため、安心できる水を安定して供給しつづけるために、水道事業者の責任において保持しなければならない基幹的業務（コア業務）については、上下水道部が責任をもって取り組み、定型的な業務など、可能な限り民間に委託していきます。また、基幹的業務の技術の伝承には、他事業体への視察、外部研修等を通じて水道技術・ノウハウを吸収・蓄積し、中長期の視点で基幹的業務を遂行できる人材育成を行います。さらに、伝承すべき知能のマニュアル化やデータベース化を推進し、着実に技術の伝承が行える体制を構築します。

人員配置の推移

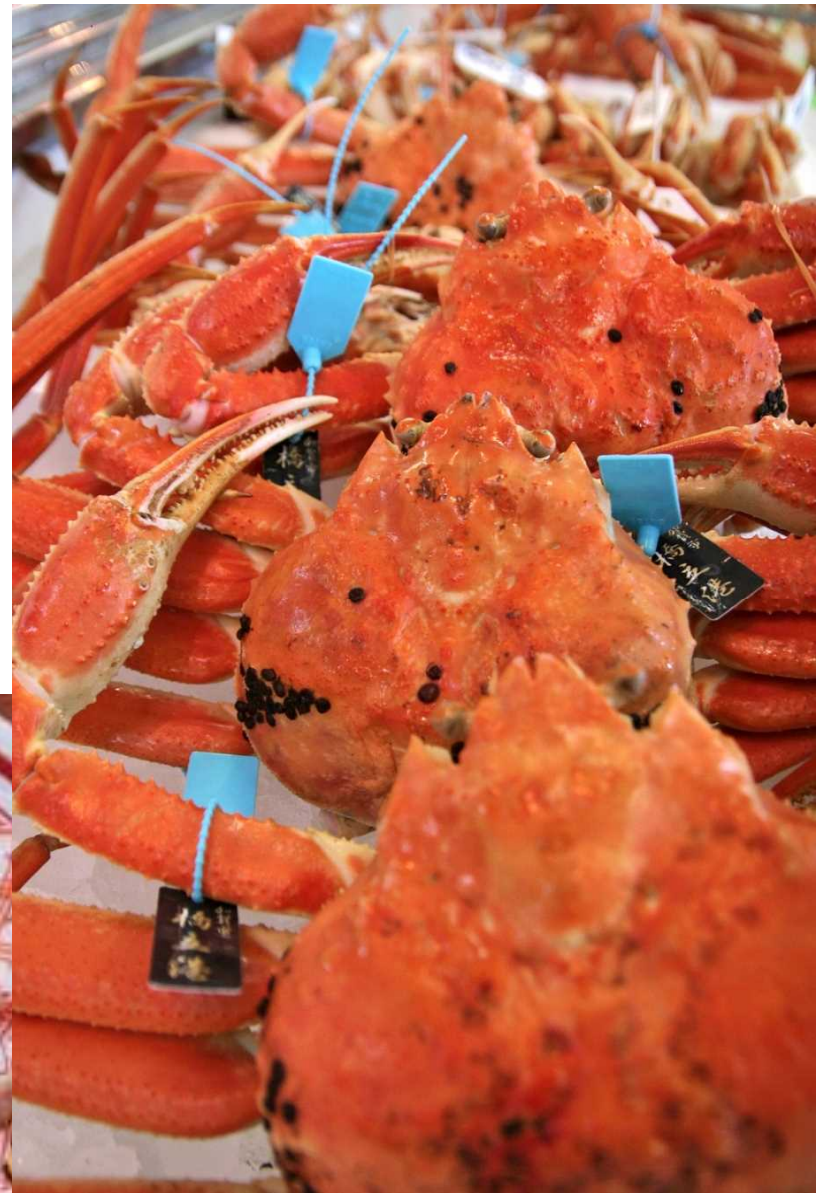


発展的広域化の推進

厚生労働省が策定した新水道ビジョンに基づき、県は平成27年度に石川県水道ビジョンを策定する予定となっています。このため、本市としては県策定予定のビジョンに基づき、県営用水供給事業や近隣事業体（小松市、あわら市等）と連携をとって、事業統合に限らず、概念を広げた広域化検討のスタートラインにたち、県のビジョンによる施策推進と調整を図っていきます。

また、本市では市民の水需要のうち50%程度を石川県営用水供給事業からの浄水受水でまかっています。今後の水需要の減少により、本市としても時代に即した県営用水供給事業との受水協定を積極的に働きかけていきます。

ご清聴いただき
ありがとうございます。



石川県加賀市